

大垣市昼飯地区都市再生整備計画事後評価委員会議事録

1. 開会日時 平成28年11月22日(火) 17時～18時40分

2. 開会場所 大垣市役所東庁舎3階会議室

3. 出席者

(都市再生整備計画事後評価委員)

委員長 岐阜大学 地域科学部教授 西村 貢

委員 名古屋大学大学院 環境学研究科准教授 小松 尚

委員 NPO法人 緑の風 理事長 浅野 純一

(事務局)

大垣市都市計画部長 田中 裕

大垣市都市計画部都市計画課長 關 琢磨

大垣市都市計画部都市計画課主幹 平野 暁

大垣市都市計画部都市計画課主査 佐竹 佳衣

大垣市都市計画部都市計画課主査 橘 倫子

(傍聴人)

なし

4. 議事要旨

(1) 事後評価手続き等にかかる審議

① 事後評価方法書について

② 成果の評価について

③ 実施過程の評価について

④ 効果発現要因の整理について

⑤ 事後評価原案の公表の妥当性

(2) 今後のまちづくりについて審議

① 今後のまちづくり方策の作成について

② フォローアップについて

5. 議事録 (開会 午後5時)

(1) 事後評価手続き等にかかる審議

委員長 審議事項1の事後評価手続き等の審議ということで、今日これからご意見をお伺いして、最終的には一番最後の21ページのところの委員会の審議ということになるわけですね。

それでは、①の方法書についての審議ですが、これは事後評価で求められている従前値とか庁内検討会議が行われたかどうかの確認ということですか？

事務局 そうです。

小松委員 そもそも、なぜこの3つの指標で評価するのですか。

事務局 先ほど、計画を作ったときの課題を3つ説明させていただきましたが、課題に対応する指標としまして何があるかを検討して、この3つの指標になりました。

小松委員 例えば、「地域コミュニティの活性化」に対応する指標がないと思うのですが。「子育て支援に対する満足度」というのも課題に対する指標になっていると考えるのが難しいのですが。

事務局 地域コミュニティという点につきましては、公園の利用件数というのがグループで利用される方の件数を拾っているもので、地域の子供会、老人クラブ等の方々が利用した件数を数えておりますので、これが増えていくということは地域の活動が活発になっていると評価できると考えて、この指標を採用しています。

小松委員 そうすると利用件数は、申請があった件数ということでよろしいですか。

事務局 そうです。

小松委員 具体的にはどういう活動をカウントしているのですか？

事務局 地元の老人会や自治会などの団体が、ゲートボールやグラウンドゴルフの活動をする場合にあらかじめ団体の方から利用申請がありますので、その団体の公園利用申請の件数を1つの指標にしております。

小松委員 その申請で、団体のタイプが増えたとか、そういうことは分かりませんか。
つまり、利用件数といっても、ある老人会の利用数が増えているだけかもしれないですね。そうすると活性化には全然寄与してない。だから単純な利用申請数だけでなく、中身が大事だと思います。
そして、それが、公園を整備した内容とどう関連しているかというのが、更に大事だと思います。単純にトータルの件数が多くなったというのも、1つの大事な指標だとは思いますが。

事務局 実際のところ届出の中身の分析まではしておりませんが、提出された申請を見ますと、老人クラブですとか、周辺の保育園の行事で使用した件数が多いという印象です。

小松委員 もうひとつ、子育て支援に関する満足度がなかなか上がらないということは、目標と指標とがリンクしていなかったのだと思います。
先程の公園の利用件数ですとか「公園・緑地に対する満足度」ですとか、こういうことを分析した方が、より正確な評価になるのではないかと思います。

事務局 今ご指摘いただきました点につきましては、事後評価シートの18ページに、まちづくりの経験の活かし方ということで、今回の反省点を記載しているのですが、その中で、やはり子育て支援に関する満足度はおっしゃる通り事業の内容との関連性が十分でなく、事業の成果を捉えきれなかったということを反省点として挙げております。
また、8月に行いました住民に対するアンケートでは、公園の整備に対しては、非常に良い評価をいただいております。直接的に公園という点で聞けば良い評価をいただけていると思っております。

委員長 写真を見ていると不特定多数者が利用しやすい滑り台などを整備していますが、利用件数としてはゲートボールのように整備した遊具を使わない団体登録とかの状況になっているのでしょうか。
不特定多数者が日常的に利用する遊び場としての満足度は高まっているの

ではありませんか。

事務局 昼飯地区のアンケートではそういうことです。国の交付金を使って整備したことについては、そういう評価がされているわけです。

事務局 この計画の制度上、数値で評価しなさいというのがまず第1にありますが、11ページに、こういった数値で表せない「定量的に表現できない定性的な効果発現状況」という欄がございまして、こちらには今申し上げましたような、アンケートでは公園整備について高い評価を得たということや、自由意見においても、玉池公園によく行くようになったといった前向きな評価をいただいておりますので、それについてはここに記載させていただいております。

委員長 「子育て支援」と言われると、もっと違うものを思い浮かべる。

事務局 「子育て」を定期的に調査しているのは、先程の市民満足度調査ですので、その中から拾い上げてしまったというところに、最初につまづきがあるんだと思います。実際には、子育てに対する施設であるとか、金銭的な支援というようなものを意識してしまうようですので、その辺の直接的な結びつきがあいまいなものを数値として取り込んでしまったという部分はあると思います。

委員長 「子育て支援」というのは大項目ですから、その中に例えば医療費保証とか、保育園の整備とか、子育て手当、そういう金銭的なものや施設のなもの、そしてその後に公園みたいな感じで項目を挙げるべきでしょう。そういった項目はアンケートで設定していないのですね。

事務局 そうですね。子育て支援という広い項目になっています。

事務局 小松先生がおっしゃったように、指標2が公園整備となかなかリンクしないのだと思います。どうしても子育て支援はトータル的になりますね。

浅野委員 むしろソフト面ですね。

事務局 そうですね。ハードだけでなくソフトも含めてですね。

委員長 例えばテレビで取り上げられたりしてはいますが、東京だったら、都市公園を潰して保育所を作るというような議論がありましたよね。そういう保育所さえ確

保されていないところで施設を建設するのか、フリーゾーンとするかみたいな議論というのは成立するけれど、大垣でこの議論は成り立たないよね。だからむしろ安心して遊ばせる空間が欲しいということだよ。

事務局 この昼飯地区は、早い時期に小さい公園が整備され、それが老朽化しておりましたので、それを今回、国の交付金を使って、時代に合った公園に新たに整備しました。そして公園ができたことによって、子供が遊べる場所ができると思います。

指標2については、子育てとかコミュニティとかに「子育て支援に対する満足度」というのを絡ませようと思ったのですが、結果としてうまくいかなかったということです。

委員長 この地区では、目標1の治水・遊水池の機能、これは必要なのですか。

浅野委員 大垣にはやっぱり要るのではないのでしょうか。昼飯は以前浸水被害にあった地区なので。

事務局 この計画を作る前になるのですが、浸水被害が発生しております。

事務局 今回、公園に一時的に水を貯める調整池機能を、交付金を活用して整備しました。そういった面からよかったと思う。

委員長 想定水量とか判断水位とかで、どこまで地域の人が必要としているのかというのがあれば。

事務局 大垣市の場合ですと排水基本計画の中でそういったものを想定しています。

浅野委員 すぐそばに住んでいるので現場を知っているのですが、いつだったか水が出て道路が冠水したことがあった。多分これで大幅な冠水は減るのではないかと思います。

委員長 そうなると、この指標設定として、いまのところも含めてこのまま進めていきましょうか。治水の問題に関しては、防災・減災拠点の充実、これは特に問題ありませんね。

浅野委員 はい。昼飯の方もそういう評価ですから。それでいいと思います。

委員長 では、そういう評価でいいということで問題ないですね。

委員長 「成果の評価」というのは指標の話ですか。

事務局 そうですね。指標の話ですので、今おっしゃっていただきましたようなこと、必ずしも目標にリンクしない指標の設定であったというご意見を委員会の意見として記載することになると思います。

委員長 利用件数の内訳はどんな感じですか。想定できるのは、老人クラブとか、そういうものの増減のような気がするのですが。例えばその中で、保育所とか幼稚園の遠足やイベントということに使われる件数が多ければ、指標2の「子育て支援」の補強指標に使えるのではないですか。

事務局 内訳の数字までは持ち合わせていないのですが、今回のこの事業で整備しました玉池公園は、幼稚園・小学校の遠足の行先といった形で利用されることが多いと思います。一方で、もう少し小規模な公園になってきますと、地域の方々の、特に老人クラブの方々のゲートボールの練習といった目的での利用が多いと思います。あとは、周辺の会社の方がボランティア活動の場として使ったり、福祉施設の方が憩いの場として使ったりといった利用があります。

委員長 届出件数の中身を分析して、子育て支援の成果を補強できるのでは。

事務局 保育所など子育て関係の利用が図られていることを記載してはどうかということですね。ただ、届出が出されない利用までは把握できていませんが、前に比べると利用は増えています。

浅野委員 玉池公園も駐車場がないくらい増えていますね。駐車場4台か5台くらいしか停まらないんだけど、もういっぱい。以前のことを思うとかなり増えていますね。

事務局 子どもたちの利用は多分増えていると思いますが、それが数値として比較できない。

浅野委員 事前の数値が分かってないから。

委員長 持ってるアンケート数値でうまくできないの？利用件数とか。

事務局 利用件数ではちょっと難しいです。計画前と後を比較しないといけないのですが、過去のデータがありませんので。

浅野委員 その他の指標で、公園に対する満足度はぐっと上がっている。これは見えるんだけど、逆に言うところしか見えない。

委員長 満足度は上がっているのだから、若い人とか子育て世代とか、回答者の属性をリンクさせて分析できないの。

事務局 それに関しては可能です。年代別のデータがあったと思いますので。

委員長 子育て世代というのが一般的には20代・30代だから、その人たちの満足度が上がれば子育て世代には効果があったといえる。だから指標2の総合所見のところに、もし可能なら属性と結び付けて、指標設定を再検討して、見直して対応すべきだったという話を。

小松委員 ちょっと細かいことですが、14ページの総合所見のところで「公園整備による子育て環境の充実を目指して取り組んできたが、それが子育て支援のイメージ向上に結び付かなかった」とありますが、ちょっとこれ違うと思います。「イメージ」ではなく「子育て支援の満足度の向上に結び付かなかった」ですよ。

13ページの指標3の公園利用件数の先ほど話のあったところですが、「地域の住民グループ、近隣の幼稚園・小学校などの利用が増えた」とありますね。だから多分集計されているのではないですか。だから、このエビデンスがあれば問題ないですね。

委員長 それでは、続いて21ページの委員会の意見というところの整理をしたいと思います。「方法書」ですが、前回の委員会では何と書いていますか。

事務局 「方法書に従って事後評価が適正に実施されたことが確認された」と。

委員長 いかがですか。そのような書き方でよろしいですか。

委員 (同意)

委員長 「成果の評価」についてはどうですか。

事務局 先程、子育ての目標にリンクしていないというご意見がありました。

委員長 目標2の「地域活動拠点の拡充による健康増進と子育てしやすいまちづくり」と目標3の「高齢者世代と子育て世代の交流拠点の拡充による地域コミュニティの活性化」。これについては浅野さんどうですか。地域コミュニティの活性化というのは。

浅野委員 そうですね、青墓の地区センターができたのは、いつ頃でしたか。

事務局 まだ新しいですね。平成23年度に設立しましたので5年くらいです。

浅野委員 だから、地区センターの利用が増えるよね。

事務局 もともと赤坂に赤坂総合センターがあったのですが、老朽化しているので廃止して、青墓地区センターを利用してくださいというふうにしてきたので、ある意味、赤坂地区の人も青墓の方へ流れている可能性があり、一概にコミュニティの利用件数につながってないかもしれない。

委員長 まあ、利用団体件数が増えているとは言える。

事務局 需要は増えており、コミュニティ活動に関する指標としてはそれなりの成果がありました。

委員長 では、効果発現要因の整理については、適正に実施されたということにしましょう。
事後評価原案の公表の妥当性については、適正であるとか妥当であるという記載になりますか。

事務局 前回の事後評価では「適正に実施されたことが確認された」と書いています。

委員長 「その他」については、前回の事後評価では何か書いてますか？

事務局 その他は特になしですね。

委員長 では「事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認」については、妥当だということにしましょう。

 では審議事項2の今後のまちづくりについての審議に入っていきたいと思えます。

(2) 今後のまちづくりについて審議

委員長 アンケートは5月ですか。

事務局 アンケートは4月から5月にかけて行います。

委員長 すると集計するのはその後ですね。その時に確定値がでるのですか。

事務局 そうです。

委員長 それが終わったら提出するのですか。

事務局 そうです。

委員長 フォローアップは適切だと思います。まちづくり方策については、少しコメントをお願いします。

小松委員 利用者の立場から言うと、必ずしも公園だけが子供を遊ばせに行く場所じゃないと思うんです。例えば学校の校庭だって、今はどうなってるか分かりませんが、昔はやっぱり遊び場でしたし、地区センターというのも、遊び場というのは必ずしも外で遊ぶだけじゃないので、そういった部屋遊びだってあるでしょうから、子育てに関係する場の整備も多様なタイプがあっていい。

 それから、先ほど車で行くという話がありましたが、確かに最近の、特に地方都市だと車で遠出するんですよね。そういう遊び場も必要ですけど、やっぱり徒歩圏にそういう場所があるかどうかということも大事だと思います。そうすると今回整備された公園、もちろん大事な事ですが、それだけでは多分カバーできないでしょうし、徒歩圏で行くということは、当然そこまで行く歩行者空間が安全安心であるという、そういう広がりが必要だと思いますね。

委員長 この公園のところでいわゆる防災というか治水、これについてのコメントは

ないですか。

今後のまちづくり方策として 16 ページに「防災・減災拠点としての公園の認知度の向上を図る」とあって、そのために自治会の防災活動等への活用を促進する、これは良い事だと思います。防災活動等の訓練の場という事で実際にその場に行ってみるといことになると、緊急時にあそこに行けばいいと分かる。ハザードマップとかでここですよと言うよりも、出かけた経験があるというのがよい。

それから、AEDで心臓マッサージの訓練や毛布を使って担架を作るとか、段ボールのようなもので簡易トイレを作るとか、あるいは緊急炊き出しとか。そういった活動を公園に消防や地元の人が集まってやるとよい。

浅野委員 公園には防災備蓄倉庫いっぱいある。それをうまく使えば。

委員長 公園の倉庫に防災グッズとか置いてるんですか。

事務局 置いてあります。以前は学校に集中方式で集めてあったのですが、使い勝手が悪いものですから最近では逆に地区センターとか公園に置いてあります。

委員長 自治会での防災活動としての活用だとか、これは認知度を高めるための項目として、すごく目標設定としていいなと思います。

一宮では、毎年テーマがいろいろあって、緊急避難用のマッサージのように消防との訓練のようなものもあるし、独居老人という民生委員的なテーマもある。年度によってテーマが変わりますが、そういう場として公園を使ったりしている。だからそういうところで自治会と協議しながら進めていくというもの。従来は、民生委員だけが知っていたけど、認知症の場合や病気の介護でも、自治会長も含めて知っている。

事務局 たぶん大垣市も地区社協のほうでやっています。

委員長 地区社協で民生委員を協力員としてやっているけど、1人の民生委員が対応するのが多いんですよ。町内会くらいの団体でないといけない。

だから小さい、向こう3軒両隣くらいのレベルの中でやっていただきたい、そういうような議論を進めていただくとするか。

それから、残された未解決の課題の「親子のふれあいなど、子育ての場として公園を利用する機会の充実」ですが、僕は、大垣の隣の北方で実験したことがある

んですが、おじいちゃんと孫がだいたい運動能力が同じ。親は30代、40代なので運動能力が高すぎる。だから親子だけじゃなくて、シニアと孫というのが、最近イベントとして随分成功していると思います。

小松委員　　ちょっと今のお話とは離れるかも知れませんが、先ほど写真を見せていただいた時に、土の地面に滑り台や遊具が置いてあるタイプの公園整備だったと思いますが、例えば遊具はなくて芝生広場が広がってるだけという方法だっているんじゃないかと思うんですよ。子どもの数が減っているので、公園イコール子供の遊び場というのが今の暮らし感覚では成り立たないところがある。もう少し高齢者の方も利用できるもの、たとえば東京なんかだと、健康増進のための器具が散歩の経路づたいに置いてある。

それから、何もなくて交流は始まらないので、やっぱり屋根が欲しいなとか、そこで水と火が使えないかなとか。例えば東京の防災公園なんかだと、ベンチの下にそれが入っていて、有事に開けるとそれが使えるという風になっている。だから子供向けの公園もあってもいいですけど、もう少し色んなニーズに重点を置いた公園があってもいい。

事務局　　小松先生がおっしゃった通りで、ワークショップでやると、親御さんと遊具を設置して欲しい、中高年になってくると遊具はいらなくなるから健康器具を設置してほしいという意見があって、最近では高齢者の健康増進につながるようなものを周辺に置くようにしています。今作っている昼飯東公園がそうです。昔は子どもだけしか考えなかったのですが、最近はお年寄りの人も使えるようなものまで設置しつつあります。

委員長　　では、「親子のふれあい」についてはもう少しシニアと孫という切り口で書いておいてもらったらと思います。今後のまちづくり方策については、全体としては適切であると認めたくて、今の健康増進という言葉を入れましょう。フォローアップ計画そのものは適切であるとしましょう。それから、今後のまちづくり方策の中身についてももう少し記載を。「その他」については特になしでよろしいですか。

委員　　(同意)

委員長　　では、この最後の評価シートの大体の内容、方向性が決まりましたので、今日の審議は終わりにしたいと思います。今後どういう風に進めていくかについて確認して委員会を終了したいと思います。

(事務局より評価委員会後のスケジュールについて説明を行った)

委員長 ということでよろしいですか。

委 員 (同意)

事務局 ありがとうございました。これをもちまして事後評価委員会を閉会したいと存じます。今後とも、本市のまちづくりにご協力いただきますようお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

(閉会 午後6時40分)